

パレットHG

施工要領書

四国化成の製品をお買い上げいただき、ありがとうございます。

末永くご愛用いただくために、この「施工要領書」をよくお読みいただき、正しい施工をお願いします。

●施工は専門業者が行ってください。専門知識のない方が施工されますと、不具合発生の原因となる事があります。



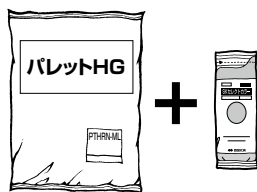
ご使用前に

まず、商品をご確認ください!!

基材の種類によって使用方法が異なりますので、ご注意ください。

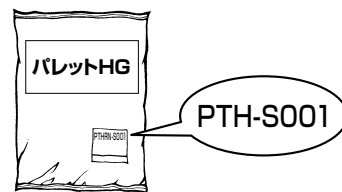
①SKセレクトカラー着色タイプ ⇒PTH-ML

基材だけの使用はできません。
必ず所定番号の「SKセレクトカラー」(別梱包)
を混練りしてご使用ください。



②基材のみで使用するタイプ ⇒PTH-S001

「SKセレクトカラー」は必要ありません。
基材だけでご使用ください。



おことわり

1. 壁面に強く触れると肌を傷つけることがありますので、ご注意ください。
2. 天然の土や砂等を使用している為、多少のロットによる色違いや経時による退色があります。
3. 地震などによって下地に振動が生じると、壁面にチリ切れやクラックを起こすことがあります。
4. 製品自体に白華の原因となる成分は配合されておりませんが、下地に起因した白華が生じる場合があります。

安全に関する注意事項

- 製品の特性を十分にご理解いただき、正しくかつ安全にご使用いただくために、次の事項につきまして、ご遵守願います。
 - 詳細な内容については、安全データシート(SDS)をご参照ください。
1. 子供の手の届かないところに保管してください。
 2. 指定された材料以外を混合しないでください。
 3. 作業中は目、皮膚への接触を防止するため、状況に応じて保護眼鏡、保護マスク、保護手袋を着用してください。
 4. 作業中は換気を行ってください。
 5. 目に入った場合には、多量の水で洗い、医師の診断を受けてください。
 6. 誤って飲み込んだ場合には、ただちに医師の診断を受けてください。
 7. 作業後は手を洗い、うがいをしてください。汚れた作業服は洗濯してください。
 8. 空容器の処理は、可燃物・不燃物に仕分けして産業廃棄物処理業者に依頼してください。
 9. 残さ・残液(ボンドなど)は、下水・河川・池・井戸・地下水などを汚染する恐れがある場所には廃棄しないでください。

施工前の注意事項

1. 直射日光の当る場所や湿度の高い場所、高温(40℃以上)または低温(0℃以下)での製品の保管は避けてください。
2. 施工前には試し塗りをを行い、色や模様のパターンの確認を行ってください。
3. 施工にあたっては次のものをご用意下さい。記載に無い物でも、必要に応じてご用意ください。
 - バケツ等の攪拌用容器(錆がでない、汚れていないもの。)
 - 攪拌機(リシンマザール等)
 - ステンレス鏝
 - 左官道具一式
 - 保護具一式(保護マスク、保護眼鏡、保護手袋、作業服等)

施工上の注意事項

1. 指定された材料以外の混入はしないでください。
2. 気温5℃以下での施工は避けてください。
3. 施工後、硬化するまでに気温が0℃以下になる恐れがある場合は、施工を避けてください。
4. 施工中や硬化するまでの間に降雨や降雪が予想される場合は、施工を避けてください。
5. 乾燥しきらないうちに雨に当てないでください。降雨の恐れがある場合には、必ずブルーシート等で養生を行い、塗りに雨がかからないように注意してください。
6. 乾燥時間は夏期一昼夜、冬期二昼夜を目安としますが、気象条件や塗り厚等によっては、それ以上の期間を要することがあります。
7. 夏期、下地が焼けるような高温状態の時は、下地に微量の水打ちをしたり日除けをしたりして、急激な乾燥を避けてください。また直射日光を避けて作業を行ってください。
8. 施工面以外に材料が付かないよう、周辺部は養生してください。作業中、誤って施工面以外に塗材が付着した場合には早めに洗い流してください。
9. 大きな面に施工する場合、美しい仕上げを行うために1.8mピッチ程度で見切り目地を入れてください。
10. 塗装直後と乾燥後で塗材の色は異なります。乾燥後に本来の色になります。
11. 開封後はその日のうちに使いきり、混練りした材料の長時間放置は避けてください。やむをえず保存する場合は、塗材の表面にビニールを張る等し、水を張ることは避けてください。
12. 使用器具は付着した材料が硬化する前に水洗いをしてください。

下地に関する注意事項

1. 適応下地

■ 外装の場合…施工に際しては、必ず専用の「ex.シーラー」(別売)を塗布してください。

- セメントモルタル …… 木鏝をかけたあと金鏝で表面を押さえて平らにしたもの。
※強度低下の著しいモルタルやその表面が平滑でない場合は、再度モルタルで全面補強してください。
- RC …………… 「SKカチオンプラスター弾性タイプ」(別売)で全面下地処理後、施工してください。
- 古い外壁面 …………… 「SKカチオンプラスター弾性タイプ」(別売)で全面下地処理後、施工してください。
(強度のあるもの)
- コンクリートブロック …… セメントモルタルで全面下地処理後、施工してください。

■ 内装の場合…吸水の激しい下地の場合、「ex.シーラー」(別売)を塗布してください。

- ボード用石膏プラスター
- セメントモルタル
- 石膏ボード …………… 「SK簡易工法」、 「SK工法」 または 「SKメッシュ工法」 に準じて下地処理したもの。
※詳細については別途カタログ等をご参照ください。

2. 下地の状態について

- 突起物はタガネ等で削りとして平滑にしておいてください。
- ゴミや汚れ、油分、カビ、藻等は取り除いておいてください。
- 下地は十分に乾かしておいてください。
- 強度が低い下地は全面補強し、十分な強度にしておいてください。
- 吸水が少ない下地の場合は、塗材がダレる恐れがありますので、加水量を少なめにし、薄塗りをこころがけてください。

3. 錆について

- 錆の恐れがある場合は、錆止めを施しておいてください。
- 錆が発生している場合は、錆を除去した後に錆止めを施しておいてください。

4. 白華について

- 白華の恐れがある場合は、「ジュラックス シーラーB」(別売)を全面に塗布しておいてください。
- 白華が発生している場合は、白華を除去した後に「ジュラックス シーラーB」(別売)を全面に塗布しておいてください。

5. ひび割れや欠損について

- ひび割れ部分は市販のエポキシ系や変性シリコン系、樹脂セメント系等の充填材で補修しておいてください。
- 欠損部分はセメントモルタル等で補修しておいてください。

6. その他

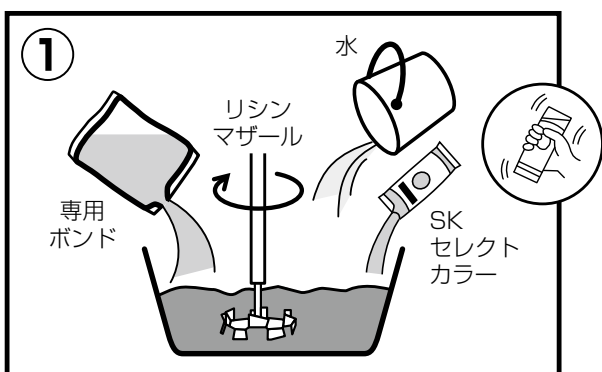
- 土留めには施工できません。
- 巾木(基礎部)に施工した場合、塗面の膨れや剥がれ等が発生する場合があります。
- ブロック塀の上端は、笠木を付ける等して水がたまらない構造にしておいてください。
- 埋め込み式のポストやインターホン、小窓等を使用する際には、周辺部をコーキングし、下地への雨水の侵入を防止してください。

梱包部品一覧表

名称	内容量	数量		標準塗布面積
基材	4,000g/袋	4袋	ケース	3.3㎡/袋 ※仕上げ・模様付けにより異なる
外装材用ボンドHG	1,500g/袋	4袋		
施工要領書	—	1部		
SKセレクトカラー(別売)	150g/袋	4袋	ケース	

施工手順

■ 練り方



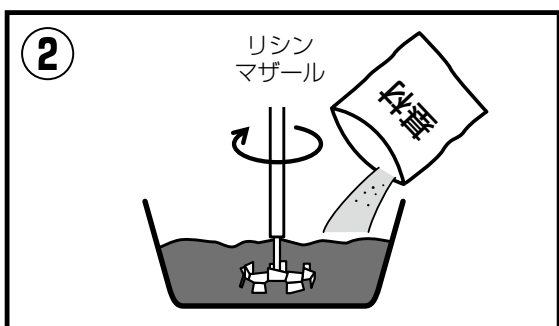
- ①容器に標準加水量の8割の水、添付の「ボンド」及び「SKセレクトカラー」(別梱包)を加え、リシンマゼールでよくかき混ぜます。

鍍塗り	1.3ℓ/袋
吹付け	1.4ℓ/袋

※必ず所定色番号の「SKセレクトカラー」を使用してください。使用しない場合、着色できません。

※「SKセレクトカラー」は袋をよく揉んでから必ず全量使用してください。

S001のみ「SKセレクトカラー」は必要ありません。



- ②次に「基材」を加えて軽く練り上げ、20分ほど練り置きし、残りの水を加えてしっかり練り上げます。

※粘度が出るまで時間がかかりますので、必ず練り置きした後に十分に攪拌してください。

※水の入れすぎは塗り面がダレますので注意してください。

※同一面での塗り継ぎは色ムラや段差の原因となりますので、必要な塗材は一度に混練りします。

※練り上げた材料は、早めに使い切ってください。

■ 塗り方

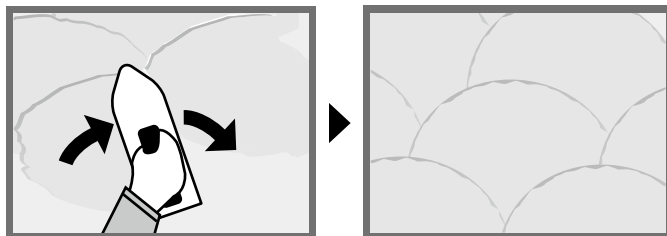
- ステンレス鍍で1.2～1.5mm程度に塗り付けた後、各種道具で模様を付けます。
※塗り厚は仕上げ・模様付けにより異なります。
- 2度塗りを標準とします。全面しごき塗りをを行い、指触乾燥あるいは完全乾燥後に仕上げ塗りをします。
- 模様付け無し仕上げはできません。必ず模様付けを行ってください。
- 鍍以外に「吹付け」施工も可能です。
※模様付けは表面水が引かないうちに早めに仕上げてください。
※美しい模様付けを行うには塗り厚を均一にしてください。
※薄塗りますと下地の透けや模様ムラの原因となります。
※塗り継ぎは目地部やコーナーで行います。
※塗り付けと模様付けは二人で分担すると作業がはかどります。

模様の付け方

※各模様付けの詳細については、必要に応じて模様付け毎の施工要領書をお取り寄せください。

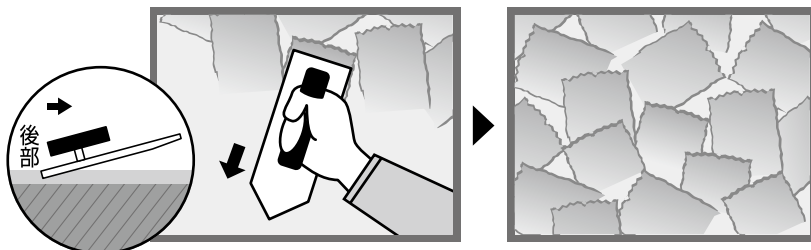
扇仕上げ

扇形の鍍波を残し、模様を付けます。



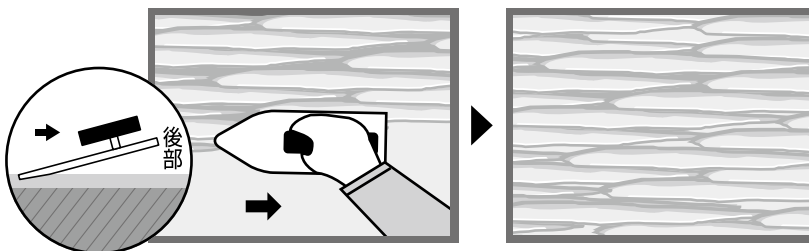
スパニッシュ仕上げ

鍍の後部(鍍の先端は浮かせ気味にする)で、縦、横、斜めに押さえながら模様を付けます。



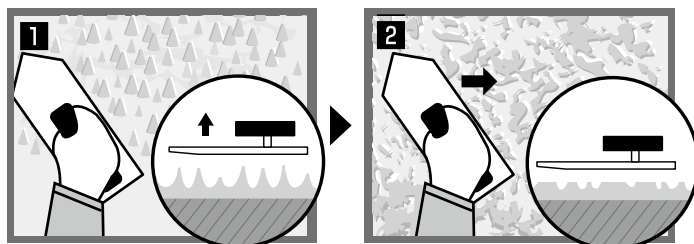
ヒキズリ仕上げ

鍍の先端(鍍の後方は浮かせ気味にする)で模様を付けます。



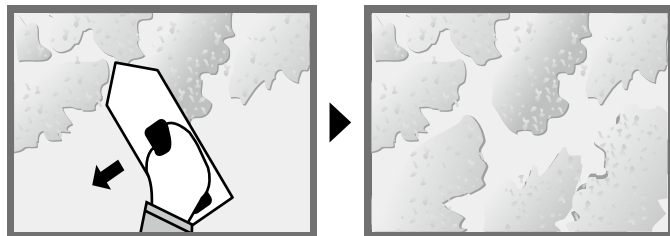
スタッコ仕上げ

鍍で、波頭を引き起こし、塗膜の表面乾燥が始まったら、仕上げ鍍に清水を含ませながら、波頭を押さえてヘッドカットをします。



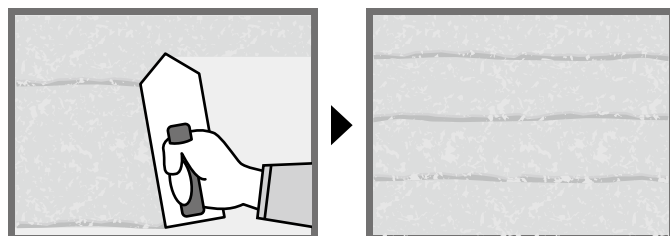
ラフ仕上げ

塗り付けた面の上に、さらに部分的に塗
り材を盛り付け、仕上げに表面を刷毛引
きます。



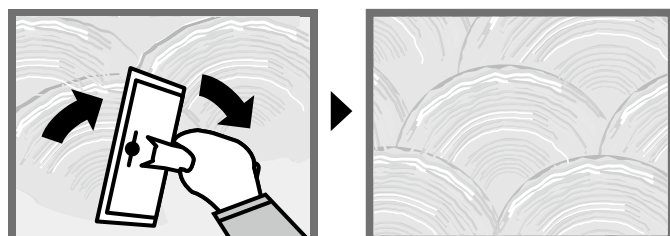
鋺波仕上げ

表面水が引かないうちに0.3mm厚のス
テンレス鋺で鋺波を残して仕上げます。



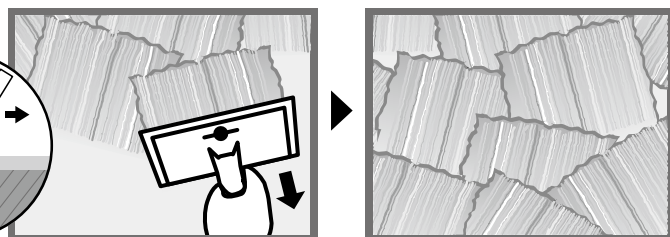
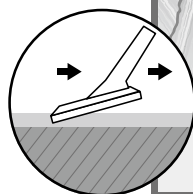
コテバケ 扇仕上げ

扇形のハケ目を残し、模様を付けます。



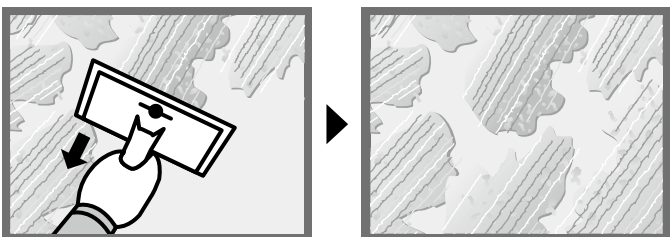
コテバケ スパニッシュ仕上げ

コテバケで、縦、横、斜めにハケ目を残
し、模様を付けます。



コテバケ ラフ仕上げ

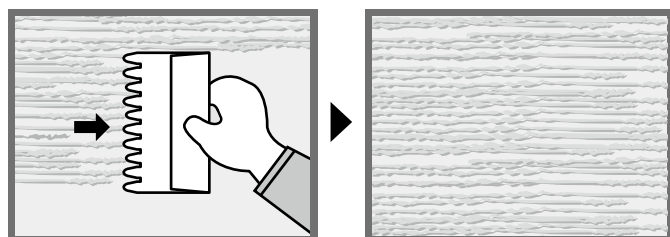
塗り付けた後、乾燥前に部分的に材料を
盛り付けていき、その後、ならすような
感じでハケ目を付けます。



ウェーブ仕上げ

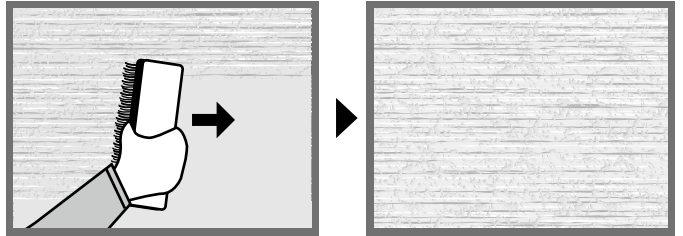
専用の「パターンカートリッジ」(別売)を
使い、30~40cmくらいの長さで同一
方向に掃くような感じで2~3度塗り返
しながら模様を付けます。

※「パターンカートリッジ」には「細目」「粗目」が
あります。



刷毛引き仕上げ

表面水が引かないうちに、左官刷毛などで刷毛引きを行います。
まっすぐだけでなく、曲線やポイント模様など、自由な模様付けが可能です。



■ 「吹付け」の場合

吹付けはリシンガンを用い、2度吹きを標準とし、下地が透けないように吹付けてください。
口径は4mm程度のものを使用し、空気圧は5～6kg/m²が最適です。

関連商品

- 粗目骨材「寒水石」「パラミックス」を使用することにより、より多様な仕上げが可能になります。詳細については、見本帳、個別の施工要領書をご覧ください。